



インタビュー **青木 尚佳さん**  
(第6回仙台国際音楽コンクール ヴァイオリン部門第3位)

2016年に行われた第6回仙台国際音楽コンクールでヴァイオリン部門第3位に入賞された青木尚佳さんにメールにてインタビューしました。青木さんは、今年からミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターに就任されました。

**この度のコンサートマスターご就任について、経緯(きっかけ)や抱負など、お聞かせください。**  
最初はアシスタントコンサートマスターのポストに応募していたのですが、コロナにより昨年6月に行われる予定だったコンサートマスターのオーディションが10月に延期となり、アナ・チュマチェンコ先生とも相談し、せつかくのチャンスなので受けてみよう、となりました。まさか合格するとは夢にも思っていなかったもので、ただただ驚くばかりでした。今年の1月から試用期間が始まり、慣れないことも多く緊張の毎日を送っていますが団員の皆さんが本当に温かく迎え入れてくれ、少しずつですが環境にも慣れてきました。少しでも早くミュンヘン・フィルの豊潤な響きに溶け込めるように頑張っています。

**ソロや室内楽とは別の、コンサートマスターの魅力とはどのようなものでしょう。また、どのようなコンサートマスターを目指されますか。**

素晴らしい指揮者の方々と共演できること、様々な楽器の魅力に間近で触れられること、たくさんの素晴らしい管弦楽曲を演奏できることです。理想のコンサートマスターは私の師匠でもある堀正文先生ですが、女性にしか出せないしなやかさも大切にしつつ、周りの方々のアドバイスも参考にしながら私にしか作り出せないコンサートマスターの姿をお見せできればいいかなと考えています。

**来年行われる第8回コンクールのセミファイナルの課題の一つが、前回に引き続き「コンサートマスターとしての演奏」となっています。その役割としての面白さ、難しさをどう感じておられますか。**

オーケストラの特徴を活かしつつも指揮者の意向も組み込むこと、的確なタイミングでオーケストラをリードすること、タテを合わせる事はもちろん大切ですが、如何に音楽的にリードできるかが難しいところです。どうしたって男性的な力強さは出せないの、「自分らしさ+a」を出せるようにすることが目下の課題です。第8回の課題曲である「英雄の生涯」、早く私も演奏したいです!

**青木さんが出場された時のセミファイナルの課題はシューマンのコンチェルトでした。**

課題曲が発表されてから1番に譜読みを始めた曲でした。ああでもないこうでもない、と時間をかけて自分なりに練ったので自信を持って演奏できたと思います。コンクール以来、

演奏したくてもなかなか機会に恵まれていないので、また仙台で演奏できたら嬉しいです。

**コンサートマスターとして、またソロとして、それぞれ取り組みたい作品はありますか。**

ミュンヘン・フィルと言えばブルックナーなので早く演奏したいです。その前に1日でも早く、通常通りの編成で演奏できることが今の願いです。ソロは機会があれば、去年コロナの影響でキャンセルになったイザイの全曲リサイタルツアーを行いたいです。今年1年はオーケストラに集中したいと思っています。

**昨年来のコロナ禍の中、緊張をほぐすために、何をされていますか?**

去年は数ヶ月ほど大人の塗り絵にどハマりし、毎日のように塗っていました。コンサートがなくなり、練習のモチベーションも下がっていた時期でもあり、何か集中、没頭できるものが欲しかったんだと思います。今はもう興味ありませんが(笑)。ドイツが去年の冬から完全にロックダウンになったときはお料理にハマり、人生で初めて「おせち」を作りました。お天気が良ければお散歩して太陽を浴びるようにしています。

**最後に、第8回仙台国際音楽コンクールに出場しようという若い音楽家にアドバイスやメッセージをお願いします。**

コンクールはあくまでも人生の一つの過程にすぎません。もちろん、参加するからには最大限の準備をしなければいけないし、精神的にすり減ることもあります。その過程がプラスになることもあります。集中力、体力共に2週間強保つのは大変ですが、仙台には美味しいものがたくさんあるし、会場近くの公園もお散歩に最適なので適度に気分転換しながら頑張ってください。期間中に1度だけヘッドスパに行きましたが、あまりに気持ちよくて張り詰めていたものが緩みすぎたので、集中力を戻すのが大変でした(笑)。2週間のうちに異なるコンチェルトをこんなに沢山演奏する機会は後にもそう無いと思うので、思う存分オーケストラとの共演を楽しんでください!



青木 尚佳さん

## ～第8回仙台国際音楽コンクール開催発表～ 世界をひらく。協奏曲との出会いから。

2021年1月19日、第8回仙台国際音楽コンクールの開催要項が、新型コロナウイルス問題対応のため、郡和子仙台市長（コンクール組織委員会会長）によるビデオメッセージでの発表となりました。運営委員長に野島稔氏、ヴァイオリン部門審査委員長には引き続き堀米ゆず子氏が、ピアノ部門審査委員長には野平一郎氏が就任されました。両部門とも課題曲は協奏曲を中心に構成されます。



### 【第8回仙台国際音楽コンクール スケジュール】

申込受付期間：2021年6月10日（木）～11月10日（水）

ヴァイオリン部門：2022年5月21日（土）～6月5日（日）

ピアノ部門：2022年6月11日（土）～6月26日（日）

会場：日立システムズホール仙台（仙台市青年文化センター）

### ＜仙台国際音楽コンクールの大きな特色＞

- 最大はやはりオーケストラとの共演の機会が多いこと。若い音楽家にとっての貴重な体験と、得がたい試練の場になると思われます。
- 前回（第7回）からの試みで、ヴァイオリン部門のセミファイナルでのコンサートマスターとしての演奏。それぞれの個性が際立ち、聴き比べが楽しめます。
- 過去に出場した入賞者を審査委員として招へい。今回はヴァイオリン部門に第2回6位入賞の有希 マヌエラ・ヤンケ氏（ドイツ/日本）が、ピアノ部門では第1回優勝者ジュゼッペ・アングローロ氏（イタリア）が就任しました。

2011年3月11日の東日本大震災も今年で10年という節目を迎えました。仙台フィルをはじめ、ジャンルを問わず音楽というツールを通して被災者に心を寄せ、いろいろなシーンで音楽の果たした役割は計り知れず、一人一人の心に希望と勇気をもたらしたことと思われます。なかでもこのコンクールに出場したピアニスト（主に東京在住）の皆さんが、10年の長きに亘って毎年チャリティーコンサートを開催し、仙台市への支援を続けてきたことは記憶に留めておきたいと思います。今まさにまたコロナ禍という困難に直面しておりますが、音楽がいつもかたわらにある楽都仙台を誇りに思うと同時に、第8回のコンクール開催決定に喜びと重みを感じ、つつがなくその日を迎えられることを心から願います。

## ～仙台国際音楽コンクールとは～



仙台国際音楽コンクールは、仙台市が開府四百年を記念して2001年に創設、3年毎に開催されているコンクールです。才能ある若い音楽家を輩出することにより、世界の音楽文化の振興および国際的文化交流の推進に寄与することを目的としています。ヴァイオリン部門とピアノ部門の2部門からなります。コンチェルト（協奏曲）を課題曲の中心に据えるという特色を持ち、若い音楽家がオーケストラと共演する演奏が審査されます。

コンクールは、動画データ等の提出物による予備審査を経て、日立システムズホール仙台で行われる予選、セミファイナル、ファイナルという構成になっています。第7回コンクールの予備審査には、39の国と地域から467名の申込者がありました。

予選は、ヴァイオリン部門では独奏とオーケストラとの共演、ピアノ部門では独奏で、セミファイナル以降は、両部門とも仙台フィルハーモニー管弦楽団との共演による演奏が審査されます。予選以降は全て公開で行われ、第6回コンクールには約9,000名、第7回には約9,700名を超える観客が来場し、才能あふれる若い音楽家たちの熱演を楽しみ、出場者たちに温かい拍手を贈りました。

また、多くの市民ボランティアによる運営サポートもこのコンクールの特徴の一つです。ボランティアによる温かいおもてなしは、出場者だけでなく審査委員からも好評をいただいております。仙台国際音楽コンクールの大きな柱となっています。コンクール開催期間中の仙台市内では、関連事業として次のラウンドに進めなかった出場者が各所で演奏する「チャレンジャーズ・ライブ」や、小中学校を訪問し演奏する「学校訪問ミニ・コンサート」などが数多く実施されるほか、審査委員を講師に迎えての「審査委員によるマスタークラス」も開催され、多くの市民がクラシック音楽を楽しみ、また、世界レベルの音楽家と交流を図る機会ともなっています。



# ボランティアが支える仙台国際音楽コンクール ～コンクールボランティア各部門紹介と体験談～

仙台国際音楽コンクールの運営は、4つの部門で活動するボランティアがサポートしています。事務局では2022年に開催される第8回のコンクールに向けて、一緒に活動してくださるボランティアを募集しています。活動に参加することで新しい仲間との出会いがあり、コンクールが数倍楽しくなるかもしれません。皆様の参加をお待ちしています！

## 出場者サポート部門

世界各国から仙台に集まる出場者に寄り添って、仙台滞在をより有意義なものにしてもらうために、幅広い活動をおこなっています。コンクール関連事業や練習会場での通訳、出場者の休憩スペースであり、市民との触れ合いの場でもある「交流サロン」の運営、仙台滞在の情報サポートとともに、日本や仙台の文化を紹介する催しも開催しています。

### ★K.Oさん (70代 女性)

仙台で英語を活かせる場がないかと思っていた時、出場者サポート部門募集を見つけ参加しました。出場者の移動案内や学校訪問コンサートのアテンド、練習会場での通訳、交流サロンの運営と多岐にわたる活動に携わりました。国を離れ来仙した出場者の緊張をほぐし、自分らしい演奏にベストを尽くせるような温かいサポートを心がけています。場内アナウンスでの息詰まるような緊張感、学校訪問コンサートの出場者と小学生が奏でる一体感、「交流サロン」で知ったコンクールと市民の距離の近さなど、ボランティアをしてこそその経験でした。

### ★M.Sさん (40代 女性)

交流サロンでの活動時に、来場者からの応援メッセージを英訳することが楽しかったです。書いた方の喜びや感動をそのまま出場者に伝えられるよう、イメージを膨らませながら綺麗な単語を選び英訳しました。コンクール開催時は、交流サロンに会場からのライブ映像が流れていたため、コンクールの雰囲気を感じながら活動できました。私は元々クラシック音楽のことはよく知りませんでしたが、コンクールを通じ若い演奏家達の素晴らしい演奏と向上心や熱意に触れて、クラシック好きになり大きな楽しみが一つ増えました。



## 会場運営サポート部門

コンクール開催期間中や関連事業などで、受付や案内などを行う部門です。おもてなしの心をもって笑顔で接し、「仙台クラシックフェスティバル(せんくら)」でも活躍しています。

### ★Y.Sさん (30代 女性)

私は以前、吹奏楽をやっていたこともあり、音楽が大好きだったので参加しました。お客様からありがとと声をかけていただいたり、出場者が一つ一つのステージを登っていく姿に感動したり。そんな場所を他のボランティアの皆さんと協力して作り上げていくことが楽しいです。コンクールやコンサートを聴きに行くのとは違う楽しさを発見できる、とても良い機会となっています。興味のある方、ぜひ一緒に活動してみませんか？

### ★T.Sさん (60代 女性)

私もボランティアできるのかと思って、説明会に行きました。心配な事もありましたが、お手伝いすると決めて参加しました。本番では、自分が思ったようにできないこともありましたが、まわりの方々にサポートしていただき活動できました。お客様に声をかけていただくと、うれしくなりました。普段の生活の中では、体験できないことができ、楽しかったです。



## ホームステイ受け入れ部門

コンクール出場を終えた出場者のホームステイを受け入れる部門です。外国人出場者だけでなく、日本人の出場者たちも対象です。国際交流と共に、出場者との絆を深める時間を過ごすことができます。

### ★Y.Gさん (50代 女性)

これまで5人の出場者のホストファミリーとなりました。私の料理をパクパク食べ次の日の活力にもらえる嬉しさ、美しいピアノやヴァイオリンの調べに満たされる時間の豊かさ。何年も経った後、再会が叶い「(コロナ禍の中)皆元気でいる？実家に戻り練習しているよ」とのメッセージと家族写真が届いた時、先日の大きな地震の報道に「怪我はなかった？お家は、仙台の町は？」と彼らからの便りが飛び込んできた時、仙台での日々が思い起こされると同時に彼らとの繋がりを改めて感じ、心が温かくなります。

### ★F.Nさん (60代 女性)

当時大学生だった次女にせがまれ、第4回コンクールの時にホームステイボランティアの登録をさせていただきました。コンクール開催中は当の次女は就職し不在。出場者滞在中は、コンクールの結果と一緒に一喜一憂してみたり、日本食を楽しんだり、夫婦二人の生活は花が咲いたようになりました。若くても音楽を突き詰めて勉強し努力してきた方々には教わることも多く、毎回、あっという間に滞在期間が過ぎてしまいます。今から次回を心待ちにしています。



## 広報宣伝サポート部門

仙台国際音楽コンクールを多くの人に知ってもらうためのPR活動を行う部門です。ボランティアの視点で編集した広報誌「コンチェルト」の発行、初めて仙台を訪れるコンクール出場者に仙台を紹介する「Map for SIMC Contestants」の作成のほか、ブログを使った情報発信を行っています。

### ★K.Eさん (70代 男性)

第7回仙台国際音楽コンクールの広報宣伝サポートボランティアに参加、メンバーと共に「出場者向けの仙台情報マップづくり」で活動しました。私は「おすすめ班」を担当し、前回の掲載店舗のほか新たに15店舗ほどを掲載すべく、11月から店舗への訪問活動を開始しました。クラシック音楽ファン以外の方にコンクールが認知されていないところもあるのか、無料掲載とはいえ、まずはお話を聞いていただくことに苦労したことが思い出されます。

### ★A.Kさん (30代 女性)

ご覧になっているコンクール広報誌「コンチェルト」の制作に携わっています。他の部門と異なりコンクール期間以外も継続的に活動するところが特徴で、年2回発行の広報誌以外にもブログでコンクール関連のイベントや演奏会のレポートや、過去出場者の近況などを伝えています。取材は基本編集チームの複数名で行い、経験者がサポートしますので経験がなくても大丈夫です。音楽を聴くこと、文章を書くことが好きな方におすすめの部門です。





## 仙台国際音楽コンクールボランティア 新規募集概要と活動説明会のご案内

■募集対象：15歳以上の方（中学生を除く）で原則として第8回コンクール終了まで活動可能な方  
（2021年4月1日現在で18歳未満の方は、保護者の同意が必要です）



ボランティア募集ページ

■ボランティアの申込方法：下記のいずれかの方法で申込できます。

①仙台国際音楽コンクール公式ウェブサイト内 ボランティア申込フォームから送信

※2021年4月1日現在で18歳未満の方は保護者の署名が必要となるため、申込方法は下記②のみになります。

②郵送またはFaxによる申込書の提出

※募集要項（申込書同封）は、区役所や市民センターなどの市内公的施設に配置しているほか、公式ウェブサイト(<https://simc.jp/>)からもダウンロードできます。

■申込期限：2021年7月31日（土）必着

【ボランティア活動説明会】

■日時：2021年 6月25日（金）①19:00～20:30 6月26日（土）②10:30～12:00 ③13:30～15:00

※①～③はすべて同じ内容です。

■会場：エル・パーク仙台6階 ギャラリーホール※事前申込み不要です。直接会場にお越しください。

■申込み・問合せ先：〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-7-17 SS.仙台ビル6階

仙台市市民文化事業団 音楽振興課（仙台国際音楽コンクール事務局）

[Tel] 022-727-1872 [Fax] 022-727-1873 [E-mail] info@simc.jp



仙台国際音楽コンクールを支える大きな力

### 仙台フィルハーモニー管弦楽団をもっと知ろう！【シリーズ13】

今回はファゴット首席奏者 水野一英さんにお話を伺いました。



仙台フィル マスコットキャラクター  
(C)MIKIO IGARASHI/S.P.O

#### 音楽を始めたきっかけ、ファゴットとの出会いについて教えてください。

僕は新潟県三条市の出身。父が中学校の教員で県内でも有名な吹奏楽に命をかける鬼教師で、指導した2校で全国大会にも出場していました。自宅ではクラシック音楽が流れる環境で育ち、幼稚園の頃から父にピアノを教わるようになりました。通常、ピアノのレッスンは週一回くらいじゃないですか。だけど先生が親なので、昨日習った曲が翌日演奏できないとこっぴどく叱られ、音楽を中断してしまいました。

小学校4、5年の頃、妙にTVに流れるオーケストラの曲が、気になり出して音楽を再開しました。親子が衝突しないように別の先生にピアノを習うようになりました。

中学校では吹奏楽部でクラリネットを演奏していました。高校に入學して最初のテストで数学の点がとても悪くて、大学に勉強して入るのは難しいと感じ（笑）、音楽大学が良いのではと父親に相談しました。一番競争率の低いファゴットはどうかと言われ、高校1年の10月から月に2度、東京へのレッスンに通い始めました。

東京芸術大学のファゴットは当時、12人の受験で、2名の合格でしたが、その中に幸運にも入っていました。

#### ファゴットについてお聞かせください。どのような魅力を持っていますか？

ファゴットの名前のいわれは「まきのたば」で、2本の管を足してできています。音域的には男性の声ですね。音域が低いので、オケでは縁の下の力持ちです。自己主張をしませんので、自己満足できる人に向いた楽器かもしれませんね。

#### コロナの影響で演奏活動が制限されてしまいましたが、どう過ごされておりましたか？

全く活動が止まった時期は、自分で時間を決めて朝は10時くらいから午後にかけて3～4時間練習をしました。夕方、散歩に出て、夕食時には自宅で決まってお酒を飲んでいました。そのため正月までに8kgくらい太りました（現在元に戻すべく奮闘中）。これだけ真面目に個人練習をしたのは、震災以来10年ぶりです。

#### 30年間在籍されている仙台フィルについてお聞かせください。

僕は青年文化センターが開館した年1990年5月に入団しました。入団当時は社団法人でしたので、運営面で安定していない部分が多々ありましたが、1992年に財団法人化されてからは仕事の環境も大きく改善されました。これまで人は入れ変わっていますが、オーケストラのキャラクターは変わらないと思います。結局、似たような人間が多いですね。

方向性が決まるとすぐに「ハイイ」となっちゃう。前向き志向の強いメンバーが揃っているところは変わっていません。

#### 今後、力を入れていこうと思っている活動についてお聞かせください。

あと4年で退職、終活について本気で考えています。年齢を重ねた人間は変わりがらないので、常に変わらなことを意識して演奏活動をしていきたいと思っています。



水野一英さん

#### 仙台国際音楽コンクールへの参加経験について、印象に残る出場者についてお聞かせください。

コンクールでは、めったに演奏されないコンチェルトの課題曲もリストアップされていて、誰も選曲されない曲も準備しています。また本番中は演奏活動が続き、大変な激務です。私たちはほんの少しかもしれないですが、出場者の人生を預かる時間を共有しますので、普通の演奏会のコンチェルト演奏とは全く違います。まだ若いのでコンチェルト慣れしていない人が多く、違う空気が漂い、我々オケのメンバーのやる気は普段以上かも知れません。

その中で、違う空気を感じさせなかったのが、第4回ピアノ部門優勝のホロデンコ。彼は自然体で演奏し、滅茶苦茶上手くて、ファイナルでのモーツァルトの演奏では開始時に優勝を確信しました。彼の演奏はコンクールの課題演奏ではなかったと思います。（ヴァディム・ホロデンコは第7回ピアノ部門審査委員を務めました。）

#### 第8回コンクールへの期待及びチャレンジャーに一言メッセージをお願いします。

仙台フィルメンバーはコンクールが終了した時点で、「次回は今年だよ」とゆるやかですがスイッチが入ります。「そうだよ、来年コンクール！」皆、そのつもりでやっています。この活動が私たちの演奏技術上げてくれている要素である事は間違いありません。このコンクールで新しいエネルギーがもらえるかも知れません。また未来の大匠匠の若い時代の音楽に会える機会かも知れないと楽しみにしています。出場者の皆さんは自分の出したい音楽を私たちに提供してください。コンクールの結果も重要ですが、協奏曲を演奏するために来てください。それが上手くいけば成果は出ます。

発行：第8回仙台国際音楽コンクール 広報宣伝サポートボランティア



問合せ：仙台市市民文化事業団音楽振興課(仙台国際音楽コンクール事務局) Tel: 022-727-1872 / e-mail: info@simc.jp / URL: <https://simc.jp>